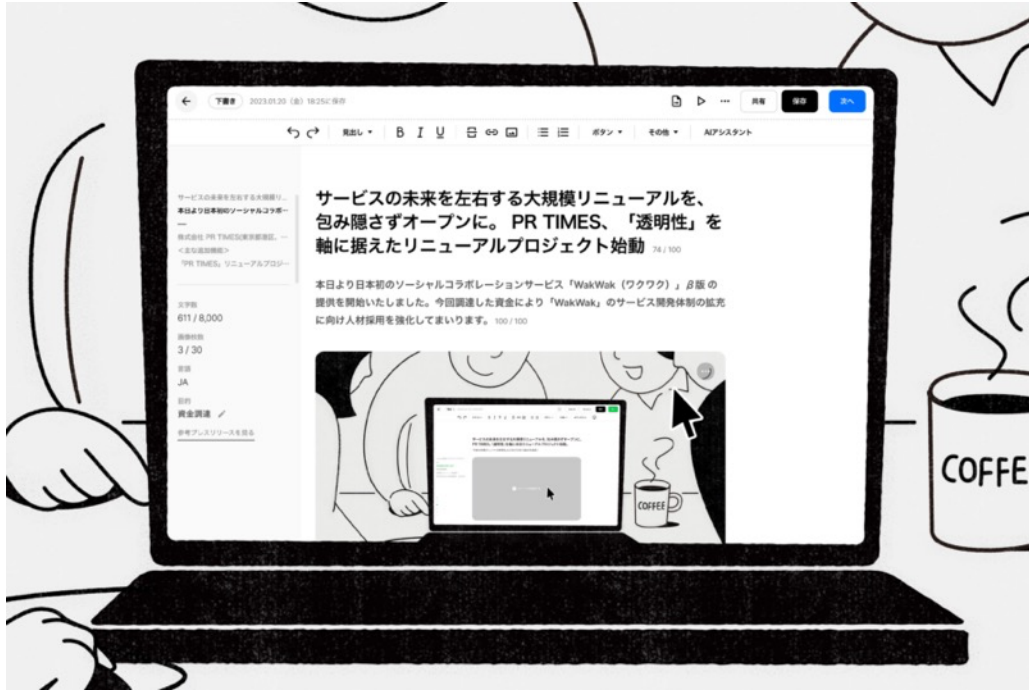


プレスリリースを書くために設計された PR TIMES 新エディター公開 AI アシスタントなど新機能【PR TIMES リニューアルプロジェクト】

- 本日 12/19 PR TIMES 新エディター&同エディターを切り出した新ツール「PR Editor」正式版を公開 -



株式会社 PR TIMES（東京都港区、代表取締役：山口拓己、東証プライム：3922）は、2023 年 12 月 19 日（火）、プレスリリース配信サービス「PR TIMES」の管理画面におけるプレスリリースエディター（入稿画面）をリニューアルいたしました。

また、同時に「PR TIMES」のプレスリリースエディターの機能を切り出した新ツール「PR Editor」も公開いたしました。

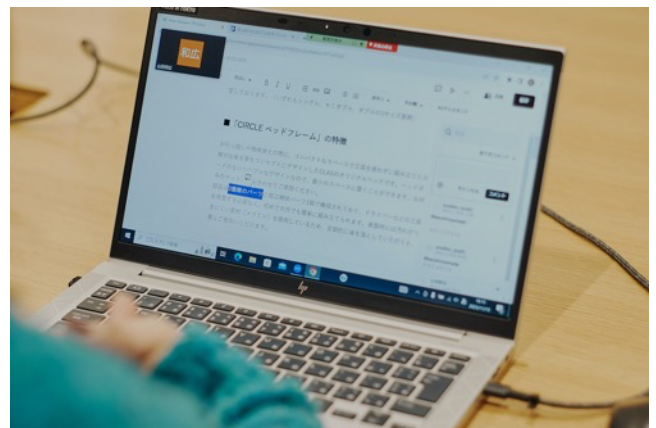
プレスリリースの可能性を広げるサービスを目指してアップデートし続ける

当社は、2023 年 7 月より「PR TIMES リニューアルプロジェクト」を開始しました。プレスリリースを発信することが特別なスキルによらず、もっと広く開かれたものにしたいと考え、発信を後押しできるような機能・UI を目指して開発を進めてきました。

お客様の PR 成果をより良いものにしたい、もっと多くの方々に、PR 及びプレスリリースの可能性を感じていただきたい。企業が抱える経営課題に対して、PR が貢献できる領域は多くあり、さらに PR を多くの企業に広めることで日本経済の成長にも貢献できる可能性を秘めていると、当社は本気で考えています。

今回、「PR TIMES」のプレスリリースエディターを UI とともに刷新しました（新エディターの機能や特徴は後述します）。プレスリリース作成をサポートする新機能、より直感的に操作できるエディターが実装された一方で、プレスリリースの可能性を広げるサービスを目指すために「PR TIMES」をアップデートできる余地はまだあります。

本プロジェクトは、企業の広報担当やメディアの方々へのインタビューやユーザーイベント、先行体験モニターなどを通じて、当社だけで完成させるのではなく、プレスリリースを発信する企業や受け取るメディア、生活者の方々のご意見を取り入れながら進めています。今回のリニューアルによって、アップデートした点、まだできていない点、実際に利用いただく中でお気づきになられることもあると思います。実際にお使いになったご意見をお寄せいただけると幸いです。



11/15 に実施した先行体験会の様子

プレスリリースの可能性をもっと高めるため | 作成をサポートするエディター

<PR TIMES 新エディターの機能と UI>

公開した「PR TIMES」の新エディターは、UI を刷新し、これまでなかったプレスリリース作成をサポートする新機能が実装されました。以下でご紹介します。

「AI アシスタント機能」

本文に入力した情報を元に、タイトルやサブタイトル、リード文を提案する機能です。



AI アシスタント機能の画面イメージ

AI アシスタント機能は、起動させた場合にのみ本文の情報を読み取り提案します。また、使用した場合にも、入力されたデータは暗号化されて保護され、AI の学習に使用されたり外部に漏れたりすることはありません。

「ボタンリンク機能」

プレスリリース内に任意のリンクを設定したボタンを設置することができます。発表内容に関する商品ページや特設サイトなど、特に訪問してもらいたいページを目立たせることができます。

ボタンリンクサンプル

ボタンリンクは任意の名前でも設定でき、注釈説明もつけることができます。

ボタンリンク機能のイメージ

「文字装飾・画像挿入」

基本的な文字装飾に、中見出しや小見出し、注釈と文字のサイズ感が変わるようになりました。任意のテキストにリンクを挿入することができ、内容に応じて適切なテキスト表現ができるようになりました。また、画像はテキストを横に並べるレイアウトを選択することもでき、複数枚をタイル表示で並べることも可能です。



見出し・本文・注釈と画像タイルの実際の表示イメージ

「定形情報呼び出し機能」

リリース文末に入れる会社情報などいつも使う情報は、あらかじめ登録しておけば、ボタンひとつで文中に追加可能。手入力でのミスを防ぐことができ、作業工程も短縮できます。



定形情報呼び出し機能の画面イメージ

そのほか、新エディターの活用術や操作方法を PR TIMES MAGAZINE の記事でご紹介しています。
<https://prtimes.jp/magazine/press-release-new-editor/>

<プレスリリース作成に特化したエディターツール PR Editor>

同時に公開した「PR Editor」は、「PR TIMES」をご利用いただいていなくても利用できるオープンなエディターツールです。今回のリニューアルによってできた「PR TIMES」のプレスリリースエディターの機能はもちろん、現時点では「PR Editor」にしかないコメントや共有機能もあります。「PR Editor」はパイロット・テストとしての役割も持ち、ユーザーから得た評判やニーズを元に、さらに「PR TIMES」をアップデートするために活用させていただきます。

また、作成したプレスリリースは、PDF や DOC ファイルはもちろん、「PR TIMES」と連携したファイル形式で書き出し取り込むことも可能なため、「PR Editor」で整えたレイアウトをそのまま「PR TIMES」で表現できます。

URL : <https://preditor.prtimes.com/app/>



450 人が先行体験に参加、PR パーソンの意見を聞きながら進めた開発プロジェクト

そして、本プロジェクトは、開発過程をオープンに公開していく手法に挑戦しており、実際に開発中の新機能を体験いただくユーザーイベント「PR Tea TIMES」の実施や、ストーリー配信サービス「PR TIMES STORY」内で「PR TIMES Renewal Journal」と題しプロジェクトの裏側や当社の思いを発信してきました。

7 月 19 日に開催した「PR Tea TIMES」には、日頃から「PR TIMES」をご活用いただく 14 名の PR パーソンに新機能をお試しいただき、11 月に入ってから先行体験会と称して公開直前の新エディターを操作いただきました。そして、12 月 5 日からは公開直前の実際の画面を多くの方に試していただこうと、「PR TIMES」ご利用企業の皆さまに向けた先行体験モニター(*2)を募集し、430 名の方にご応募いただき、多くのご意見をいただきました。

(*2)「PR TIMES」新エディターの機能を切り出したエディターツール「PR Editor」のβ版を先行体験いただきました。



7 月 19 日に開催したユーザーイベント「PR Tea TIMES」

このような透明性を軸にした開発手法は、情報の透明性が企業への信頼を高めるとともに、周囲のステークホルダーとの良好な関係構築につながります。また利用者目線の貴重なご意見をいただく機会となり、より良いサービスの開発を可能にします。

新機能「AI アシスタント機能」を体験された方からいただいた「説明や注意点が十分でないため、どこまでできる機能が分かりづらい」「情報管理が心配」といったご意見を参考に、エディター上での表現および説明を調整することができました。

このプロジェクトを成功させるために、そして、今後の開発プロジェクトにおける PR 活動の一つの手法として様々な企業に活用されるようになればと考え、「PR TIMES」の大規模リニューアルという当社にとって大切な本プロジェクトでこのオープンな開発手法に挑戦することにいたしました。

これまでインタビューや先行体験などにご参加いただき、貴重なご意見をくださった皆さまへ改めて感謝申し上げますとともに、そのご意見にお応えできるよう引き続きスピードとクオリティを高めて「PR TIMES」をより使いやすいサービスにしていくための開発を続けてまいります。

株式会社 PR TIMES について

PR TIMES（読み：ピーアールタイムズ）は、「行動者発の情報が、人の心を揺さぶる時代へ」をミッションに掲げ、「行動者」のポジティブな情報がニュースの中心となり、個人を勇気づけ前向きにする社会の実現に挑んでいます。私たちは人の行動や頑張りの結晶を、その想いを紡いで発表するのがプレスリリースだと考え、企業規模を問わず「行動者」が自ら発信できる、PR の民主化を目指して事業を展開しています。プレスリリース配信サービス「PR TIMES」の利用企業社数は 8 万 7000 社を超え、国内上場企業の 55% 超に利用いただいています。情報収集のため会員登録いただくメディア記者 2 万 5000 人超、サイトアクセス数は月間約 9000 万 PV、プレスリリース件数は月間 3 万 3000 件超、累計で 100 万件を超えています。全国紙 WEB サイト等含むパートナーメディア 240 媒体以上にコンテンツを掲載しています（2023 年 8 月時点）。



他にも、ストーリーで伝える「PR TIMES STORY」、動画で伝える「PR TIMES TV」、PR 活動の設計から実行まで伴走する PR パートナー事業、アート特化型の PR プラットフォーム「MARPH」、「isuta」「STRAIGHT PRESS」等のニュースメディア事業で、情報発表とその伝播を支援する他、生まれた企画が発表に至るまで前進できるよう支えるタスク・プロジェクト管理ツール「Jooto」、さらに発表後のお客様対応や情報整理を円滑に行えるカスタマーサポートツール「Tayori」など、「行動者」を立体的に支える事業を運営しています。

また子会社には、スタートアップメディア「BRIDGE」を運営する株式会社 THE BRIDGE、ソフトウェア受託開発を行う株式会社 グルコース、SNS マーケティング支援の株式会社 NAVICUS があります。

【株式会社 PR TIMES 会社概要】

ミッション：行動者発の情報が、人の心を揺さぶる時代へ

会社名：株式会社 PR TIMES （東証プライム 証券コード：3922）

所在地：東京都港区赤坂 1-11-44 赤坂インターシティ 8F

設立：2005 年 12 月

代表取締役：山口 拓己

事業内容：- プレスリリース配信サービス「PR TIMES」 (<https://prtimes.jp/>) の運営
 - ストーリー配信サービス「PR TIMES STORY」 (<https://prtimes.jp/story/>) の運営
 - クライアントとメディアのパートナーとして広報・PR 支援の実施
 - 動画 PR サービス「PR TIMES TV」「PR TIMES LIVE」 (<https://prtimes.jp/tv/>) の運営
 - アート特化型オンライン PR プラットフォーム「MARPH」 (<https://marph.com/>) の運営
 - カスタマーサポートツール「Tayori」 (<https://tayori.com/>) の運営
 - タスク・プロジェクト管理ツール「Jooto」 (<https://www.jooto.com/>) の運営
 - 広報 PR のナレッジを届けるメディア「PR TIMES MAGAZINE」 (<https://prtimes.jp/magazine/>) の運営
 - プレスリリース専用エディター「PR Editor」 (<https://preditor.prtimes.com/app/>) の運営
 - Web ニュースメディア運営、等

URL：<https://prtimes.co.jp/>

PR TIMES